年間授業計画　新様式例

高等学校 令和5年度（１学年用） 教科　芸術　科目　美術Ⅰ

教　科：　芸術　　科　目：　美術Ⅰ　　単位数：　2　単位

対象学年組：第　1 学年　1 組～　7 組

使用教科書：（ 日本文教出版　高校美術 ）

教科　芸術　の目標：

芸術の幅広い活動を通して、各科目における味方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次の通り育成することを目指す。

【 知　識　及　び　技　能 】芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに感性を高め,心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い豊かな情操を培う。

科目　美術Ⅰ　の目標：

美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次の通り育成することを目指す。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについ考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現 絵・彫	表現 デ	表現 映	鑑賞	評価規準	知	思	態	配当時数
前期	オリエンテーション	・自己紹介、美術選択した理由 ・美術とは何か！真剣に考える ・美術Ⅰの教科書通読	○	○	○	○	・美術の分野、1年間の学習内容の理解度 ・教科書から興味のあるところを選出、自己の価値観との共有を分析することにより、美術の価値を再確認できている。　・授業に積極的に取り組む姿勢がある。	○	○	○	2
	デザインウオッチング	・デザインの目的、機能性探究 ・校外のデザイン実作例を撮影 ・ポートフォリオにまとめ		○	○	○	・日常の生活から興味のあるデザインの実作例を調査、自己の価値観との共有を分析することにより、デザインの価値を再確認できている。 ・ポートフォリオ作成の資料によりプレゼンができる。	○	○	○	2
	部活動ポスター 【知識及び技能】 一瞬で人の注意を引き、振り向かせることができるにはどんなポスターになるか考え、参考写真やイラストを基に、構図、色彩、文字などの持つ働きを理解し、伝えたい部活動のイメージを創意工夫して創造的に表す。 【思考力、判断力、表現力等】 過去の参作例から部活動のイメージを効果的に伝える工夫を感じ取り、個性豊かな発想をして主体的に主題にあった作品を制作、テーマに見合った表現効果を模索しながら構想を完成させる 【学びに向かう力、人間性等】 ポスターを構成する要素を読み解きながら、ポスターというメディアならではの表現特性を生かした制作をして、見方、感じ方を深める創造活動に主体的に取り組む。	・部活動の魅力を感じる発想力 ・文字を中心とした構図の工夫 ・画面上のイメージ表現個性化 ・部活動の魅力を表す配色効果 ・視覚認識の優れた配色 ・丁寧なブラッシュワーク ・フィニッシュワークの仕方 ・文化祭展示・相互講評 ・指導事項 A（表現）B（鑑賞）全て 共通ア・イ		○	○	○	知：ポスターに込められた意図や目的を捉え、その構成要素である参考写真や、イラスト、文字、色彩、構図などを基に全体のイメージでとらえることを理解している。 技：一瞬で人の注意を引くという目的に応じて表現方法を工夫し、伝えたい部活動のイメージを創造的に表している。 発：過去の参考作を鑑賞して感じ取ったことや考えたことから主体的に主題を生成し、要素を吟味して目的に会う表現の構想を練っている。 態表：ポスターの役割や効果を読み解きながら、ポスターを制作する活動に主体的に取り組もうとしている。 態鑑：ポスターというメディアの良さや美しさを感じ取り、部活動それぞれの意図や表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。	○	○	○	26
後期	自画像を描く：鉛筆デッサン 【知識及び技能】 鏡で見える自分の印象を、鉛筆デッサンを通して描き込むことの意味を捉えその価値を実感し、自己の内面性まで表わすように技巧だけでなく、ポーズ自体から吟味して行う。 【思考力、判断力、表現力等】 手を入れたポーズで自分の内面が開いた場面を描きとめることで、自己を改めて追認ことになり、自身の主体的な理解を深め鑑賞できる。 【学びに向かう力、人間性等】 自己の存在の中に見慣れた情景を新鮮に受け止め、デッサンの特性を活かした制作や、自身に対する見方や感じ方を深める表現活動に主体的に取り組もうとする。	・鉛筆デッサンの用具の理解 ・鉛筆の削り方の実習 ・ポーズの取り方 ・画面構成の理解 ・面取りの理解、明暗の捉え方 ・ハッチングによる描写力 ・目、鼻、口、指先等表情の工夫 ・全体の明暗と調整仕上げの仕方 ・生徒間の相互鑑賞 ・指導事項 A（表現）B（鑑賞）全て 共通ア・イ	○			○	知：描く対象をよく理解して全体のイメージで捉え、目で見えるだけでない感じる自身を描きとめている。 技：日常の自分を深く描くために、技巧だけでなく、表情の描き込みその筆致で感じたことが伝わるよう追求して表現している。 鑑：ポーズを様々に試行し自分の心が動かされた場面を感じることで、自己理解を掘り下げ、見方や感じ方を深めている。 態表：主体的に描いて表現することで、自分の中に非日常や新鮮な想いを感じ取る姿勢を持とうとしている。 態鑑：自分自身の中に新たなよさや価値観に気づき特別な意味や自己を描くことの見方や感じ方を深める鑑賞の態度にも取り組もうとしている。	○	○	○	20
	自画像を描く：油彩画 【知識及び技能】 自己を描く活動を通して、筆跡や色使いが構図や表情などの感情に与える効果を知り、造形的な特徴を基に全体のイメージなどを捉え、意図に応じた絵の具の材料特性を活かして自身を創造的に表す。 【思考力、判断力、表現力等】 自身の内にある本質などに向き合い、見つめなおし、感じ取ったことや考えたことなどを基に、筆跡や色使いが構図、表情などの効果を考え、鑑賞もできる。 【学びに向かう力、人間性等】 自己の内面を人物画に表す創造活動に、主体的に取り組もうとする。	・油彩画の成り立ちの理解 ・油絵の具の用具、画材の使い方の理解 ・油彩人物表現の様々な作例への理解 ・自画像の構図 ・人体の比例、量感、色彩について ・人物画の空間表現について ・マチエールについて ・対象に迫る観察力 ・生徒間の相互鑑賞 ・指導事項 A（表現）B（鑑賞）全て 共通ア・イ	○			○	知：多くの自画像の作例から、表情ポーズの感情に与える描き込み、背景の効果など作者の内面や作風、様式などを捉えることを理解している。 技：意図に応じて絵の具の特性を活かし、人物画の表現方法創意工夫し、自己を追求し創造的に表している。 発：自己を見つめ感じ取ったことや内面を想像したことなどから主題を生成し、表情やポーズなどについても考え、創造的自画像表現の構想を練っている。 鑑：自画像の造形的魅力や意義、自身の心情や意図と、創造的表現工夫などについて考え、より見方や感じ方を深めている。 態表 態鑑：美術や美術文化に豊かに関わり、自画像による表現と鑑賞の創造活動に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	20
											合計 70